

In a forest deep in the mountains lived a sorcerer and his young apprentice.

Every day, the boy worked hard learning how to create magic so that he too could become an accomplished sorcerer as soon as possible.

One morning, the sorcerer had to go out, and before leaving he assigned a chore for the boy to do.

"Carry water from the well and fill the bathtub. It must be done before I return."

"Yes, master. Please take care!"



5

As soon as the sorcerer left, the boy went to the well and started getting the water.

After a short while, the boy happened to realize that the door of the sorcerer's room was left open.

He had never seen the inside of the room before.

".....If I just sneak a look inside, my master will never know."

So, he went into the sorcerer's room.



とある、やまおくの もりの なかに、
まほうつかいと、その でしの おとこのこが、
ふたりで くらしていました。

おとこのこは、はやく いちにんまへの
まほうつかいに なるために、まいにち
まほうの しゅぎように はげんでいました。

あるひ、まほうつかいは あさから でかける
ようじが あったので、いえを での まえに、
おとこのこに いいました。

「わたしが かえってくる まえに、
いどから みずを ぐんで、
ふろおけいっぱい に ためておきなさい」
「わかりました、せんせい、おきをつけて！」



まほうつかいが いなくなると、
おとこのこは すぐに いどへ 行って
みずを くみはじめました。

しばらくして、おとこのこは ふと、
まほうつかいの へやの ドアが
あけっぱなしに なっているのに きがつけました。

おとこのこは、いちども まほうつかいの へやの
なかを みたことが ありませんでした。

「・・・こっそり のぞくだけなら、
せんせいに ばれないよね」

おとこのこは、まほうつかいの へやに
はいりました。

